

特集  
かがや

# 耀く未来に向け 思いを一つに

「人が、自然が、歴史と文化が、そして未来が耀く猪苗代」  
を町の将来像に定めた第六次猪苗代町振興計画。  
このたび、その後期計画が策定されました。  
この町を耀かせるためには、どのような取り組みが必要か  
皆さんと一緒に考えたいと思います。

## Pick Up

今月のイベント

### 本町で初めての 女性消防団員が入団



町消防団の辞令交付式は4月1日、町役場正庁で挙行され、団幹部や団員ら175人に辞令が手渡されました。

その中に、少し緊張した様子の団員が3人。その正体は、本町初となる女性消防団員です。今回入団したのは、第3分団の五十嵐浩美さん、古川和美さん、加藤瑞穂さんの3人。

土屋孝彦団長は、あいさつの中で女性団員の加入に触れ「住宅用火災警報器の啓発活動などですます厚みが増し、効果的な活動ができるだろう」と期待を寄せました。

古川さんは「父が消防団に入っていたので、その活動を見ていた。自分も地域に貢献したいと思い、入団を決めた」。加藤さんは「同級生の古川さんと制服がかっこいい、女性でも入団できるかなと冗談で話していた。誘われたときに決め手となったのは、お土産の「大福」と話し、互いに笑い合いました。

新入団員を代表して宣誓した五十嵐さんは「東日本大震災で、地域の結束がなければ、地域は守れないと感じた。活火山である磐梯山や猪苗代湖のある猪苗代では、いつでも自然災害が発生する可能性がある。女性ならではの視点で消防活動に励みたい」と抱負を述べました。

まちの応援マガジン いなわしろ

## 広報 猪苗代

Apr.2012  
4  
No.618

### 今月の表紙



【撮影日】 4月1日  
【撮影場所】 町役場

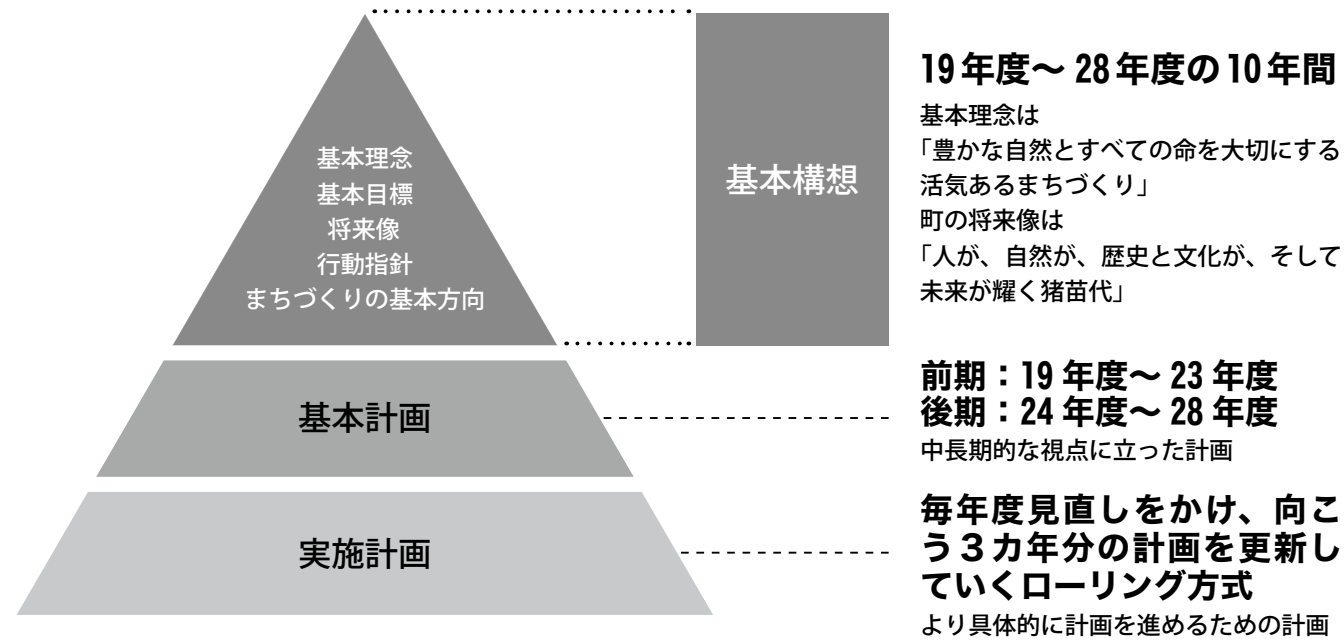
Pick Up でも紹介した女性消防団員の皆さん。女性団員がもっと増えれば、新しい地域貢献の形が見えるかもしれないと話し、「女性消防団員になりたい仲間を募集します。あと彼氏も」と笑わせました。

## Contents — 【目次】

- 02 Pick up
- 03 特集 このまちを耀かせるのは？
- 10 さくらこども園開園 個人線量計測定結果
- 12 平成24年度予算 一般会計予算は76億円
- 14 スクールトピックス & ニュース INAWASHIRO
- 16 まちの話題
- 18 笑顔でこんにちは／猪苗代そば紀行／保健だより
- 20 学びの泉
- 22 いなわしろタウンページ
- 26 暮らしの情報広場
- 28 みんなの美術館／食生活改善推進員コーナー



## ◆第六次猪苗代町振興計画の構成



### ◇新しいまちづくり実現のための基本方向◇

1. 人が耀くまちづくり	地域や世代を越えた人と人との絆づくりを進め、子どもやお年寄りを大切に、互いに助け合いながら生きがいを持って生活できるまちづくりを推進します 【施策の概要】 少子化対策の充実、生涯福祉体系の確立、健康づくりの推進、学校教育の充実、生涯学習の推進、生涯スポーツの推進、人と人との絆づくり
2. 自然が耀くまちづくり	自然の恩恵と脅威を正しく認識し、後世に残すべき貴重な自然を損なうことなく、人と自然が共生するまちづくりを推進します 【施策の概要】 自然資源の保全、水環境保全と水資源の確保、自然資源の活用、治山・治水の推進、雪対策の充実
3. 歴史と文化が耀くまちづくり	会津藩祖・保科正之公、野口英世博士などの偉人や貴重な文化財など、この町の歴史・文化や伝統を大切に「いなわしろらしさ」の創造を目指します 【施策の概要】 地域文化の振興、「いなわしろらしさ」の再発見
4. 未来が耀くまちづくり	未来に生きる猪苗代町民に、より良いまちを残すため、社会資本の整備、産業の振興や震災からの復興などを推進し、未来に希望が持てるまちづくりに努めます 【施策の概要】 定住化の促進、国際化の推進、情報化の推進、産業の振興、社会基盤の整備、東日本大震災からの復旧・復興

# Plan 計画

今後5年間のまちづくりの指針  
それが「第六次猪苗代町振興計画後期計画」  
町民の幸せという最終目的に向かって、  
後期5年間の計画を定めました

### 町民の幸せをかなえるため、 振興計画策定

振興計画は、町が目指す将来像に向けて、どのように進んでいくかを記したまちづくりの設計図です。

本町は19年4月に「第六次猪苗代町振興計画」を策定し、基本理念を「豊かな自然とすべての命を大切にする活気あるまちづくり」、町の将来像を「人が、自然が、歴史と文化が、そして未来が耀く猪苗代」と定め、その実現に努めてきました。

今回は、基本計画の前期5年間の終了したことから、事務事業の点検と評価を実施すると

もに、後期計画を策定しました。

計画の策定にあたったのは、町民の代表や各関係団体の代表者20人で構成する猪苗代町振興計画審議会の皆さん。前期5年間の点検・評価をもとに、今後の社会情勢の変化に伴う緊急性や必要性、将来予測や財政状況などを加味したほか、東日本大震災からの復興なども鑑み、あらゆる面から慎重な審議をしていただきました。

### 前期計画と後期計画、その 変更点は？

本年度からスタートする後期基本計画。前期計画からの変更

点は、以下のとおりです。

●東日本大震災の影響で、本町を取り巻く環境が大きく変化したことから、「基本構想」に東日本大震災からの復旧・復興を追加。基本計画には、3項目を追加しました。

1. 「自然が耀くまちづくり」に、地熱エネルギーの活用を追加。
2. 「未来が耀くまちづくり」に、多機能型道の駅の整備を追加。
3. 「未来が耀くまちづくり」に、東日本大震災からの復旧・復興を追加。

※復興計画の推進のため、安全・安心な暮らしの確保、地域経済の再興、災害に強いまちづくりの実現、継続可能な再生可能エネルギーの導入を図ります。

●計画内容の変更、事業廃止などによる見直しを実施しました。ため、複数に分かれていた同一目的の計画などを整理し、前期で321あった項目を216項目に整理しました。

本町の重要な課題である、少子高齢化対策の充実、生涯福祉体系の確立や地域産業の振興などは、引き続き計画に沿って進めます。このように、時代の変化に的確に対応しつつ、本町の目指す将来像を実現するため、町民の皆さんと一緒に後期計画に取り組みます。

### 前期計画の点検・評価



前期計画の点検・評価をする審議会委員

第六次猪苗代町振興計画前期計画については、昨年の9月と11月に開かれた、猪苗代町振興計画審議会での点検・評価を受けました。評価にあたっては、町の担当部局が「前期基本計画施策評価結果表」を作成。施策の進捗状況、内容や成果などを、3段階で評価し、今後の対応や課題などを記したこの表を基に、審議会委員の皆さんが審議を重ねました。

結果はおおむね良好でしたが、東日本大震災の影響で、本町を取り巻く環境が大きく変わったことなどから、後期計画には、新たに3項目を追加しました。



## 人が耀くまちづくり



子育てサロン日向ぼっこ  
代表 鈴木サチ子さん

○少子化対策の充実  
子育てサロン日向ぼっこ  
日向ぼっこは、子育て中の家族が気軽に立ち寄り、自由に遊び、親子同士の交流や情報交換などできる屋根のある公園のような場所です。子育ての相談に乗ったり、子どもとの接し方や遊び方のアドバイスをしたりしています。  
日向ぼっこは、家族と子どもと一緒に遊ぶ施設ですが、利用者の中には、一時預かりをしてほしいという要望も多くあります。  
そんな中、町が開園したこども園では、相談窓口となる子育て支援センターを設置し、一時預かりも開始しました。子育て家庭のさまざまなニーズに答えられ

### Voice



各自治体にこうした施設を  
吉田 浩子さん

日向ぼっこは、週3～4回利用しています。広い場所で他の子どもたちと遊ぶことで、ストレス発散とコミュニケーション能力の向上が図れると思います。何度も通ううちに、顔見知りの友だちができるなど、いいことがいっぱいあります。うちは転勤が多いので、各自治体にこうした施設があるとうれしいですね。

### Voice



一時預かりなどの充実化を  
小檜山 由美子さん

日向ぼっこは、ルールや関わり方などを学び、子ども同士で成長していける場所です。子どもの成長を間近で見れるのがいいですね。町の子育て支援策の中に一時預かりがありますが、町民がもっと簡単に利用できるようにしてほしいです。カメラナーナの公園のような施設がもっと増えたらいいと思います。

るものと期待しています。これからも保健福祉課やこども課などと連携を取りながら、日向ぼっこならではの活動を続けていきたいと思っています。



観光客に、町の素晴らしさを説明する伝保人

私たちが目指す町の将来像を実現するために作られた後期計画では、その4つの基本方向に、それぞれ取り組むべき具体的な施策を設けました。  
この計画が、計画のままで終わっては意味がありません。また計画を実行することが目的ではありません。計画に取り組んだ成果が、私たちの思い描く町の将来像に、私たちの幸せにつながっていることが重要です。  
計画実現のための行動は、私たちの幸せにつながっているのか。施策に取り組む人の姿やその実施状況から検証します。

# D<sub>o</sub> 実行

計画を計画のままで終わらせては意味がありません  
計画を実行することが目的でもありません  
計画の実行が、私たちの思い描くまちの将来像に、私たちの幸せにつながっていることが重要です

## 未来が耀くまちづくり



○社会基盤の整備  
デマンド型乗合タクシー  
町民バスに代わる新たな交通手段として、昨年の4月から登場したデマンド型乗合タクシー（猪苗代乗合タクシー）。  
自宅から目的地までの送迎をするタクシーのような利便性と、乗り合い・低料金というバスのような特徴を兼ね備えた移動サービスです。  
交通手段のない地域の人々が、自宅から乗り継ぎヤードまでの間を移動できるサービスで、これまでに延べ1860人（2月末現在）が利用しています。

### Voice



乗合タクシーは高齢者の足  
笠井 タツ子さん

8時の乗合タクシーに乗って、屋に帰れるという時間は、通院にはちょうどいい。前の日に連絡すれば、次の日には家の前に来てくれる乗合タクシーは、本当に便利。なくなると困る人が、町内にはたくさんいると思います。高齢者が病院に通う足として、これからも運行してほしいです。

4月からは、町内の各病院が乗り継ぎヤードに追加されるなど、さらなるサービスの向上に努めています。利用者の一人、渡部千賀子さんは「町民バスの頃は、バス停までが遠くて大変でした。乗合タクシーは自宅まで送ってくれるので助かります。帰りの時間が早くなったことも良かったです。利用者が、よく買い物をする場所が乗り継ぎヤードに追加されたら、より便利になると思います」と話しました。  
民間交通機関とのバランスを保ちながら、交通空白地域の解消に努めます。

## 歴史と文化が耀くまちづくり



いなわしろ伝保人会  
代表 江花俊和さん

※いなわしろ伝保人とは町の名所・旧跡、自然、伝統工芸や郷土芸能まで、町のことなら何でも精通している猪苗代観光の達人。愛するふるさとの語り部であるとともに、大切な観光資源を守り、次代へ伝えていくという役目も担っている。

○地域文化の振興  
いなわしろ伝保人会  
いなわしろ伝保人の定義は「猪苗代と周辺地域の自然、生活文化や歴史など、独自の観光資源を見直すとともに、地元住民としてそれらの価値に誇りを持ち、観光目的で訪れる他地域の人びとや次の世代に、その魅力や意義を伝えていく役割を担う」ことです。  
学校の登山と一緒に登ったり、猪苗代の歴史を話したりするの、子どもたちも猪苗代のことを知ってもらいたいから。磐梯山に登り、珍しい草花や噴火の後などを見せてあげると、彼らは目を輝かせます。  
史跡に行つて、石碑などの説明をしてあげると、猪苗代の歴史のすごさに感動してくれます。そういうことを分かってもらえた瞬間が、一番うれしいですね。子どもたちに地元の歴史を知ってもらいたい。これによつて郷土愛と誇りが生まれると思います。日本史や世界史を学ぶのは、その後でも遅くないと思います。  
大人でも、意外とこの町のことを知りません。猪苗代が観光の町ならば、町民一人一人が猪苗代の案内人になれるような、そんな町になることが大切なのではないかと思っています。  
猪苗代には、まだまだ埋もれている宝がたくさんあります。宣伝や案内看板の設置など、行政は行政に、町民は町民にできることをしながら、一緒にまちづくりを進めていきましょう。





沼尻鉱山と軽便鉄道を語り継ぐ会  
事務局 安部 なか さん

沼尻鉱山と軽便鉄道を語り継ぐ会の事務局を務める安部なかさんは、昭和43年に廃線となった沼尻軽便鉄道の歴史を、未来に残していこうと活動をしている一人です。軽便鉄道の写真集を出版したり、イベントに携わったりする中で、多くの人との協働があったと話します。

「協働とは、思いを共有すること。軽便鉄道を大切に思う多くの人と、その思いを共有することができたおかげで、いろいろなことができたのだと思います。野矢俊文さん、小松

## 協働とは、思いを共有することー。

山六郎さんとは、売れなかったら私たちが買い取るという条件で写真集を作りました。商工会青年部が始めた『懐かしの軽便鉄道を訪ねて』ウォーキングは、現在も続いています。軽便鉄道の歴史を、未来に伝えていくことが大事だという思いを、これだけ多くの人を持っていることがうれしいです」と笑顔で話します。

協働は、町と住民の間だけに限ったことではありません。住民同士が協力し合うことでも、大きな力になるということ、安部さんや同会の活動が証明しています。

「町では、緑の村に軽便鉄道のディーゼル機関車と客車を展示していますが、管理はしても活用はできていないと思います。私たちは、軽便鉄道を活用したい。まちづくりや観光資源につなげたい。そのためには、町と私たちが『軽便鉄道と沼尻硫黄鉱山は、猪苗代の経済的な基盤を作った大切な遺産である』という

思いを共有することが大切です。そうすれば活用する方法が見えてくる、いろいろなアイデアも出てくるのだと思います」と安部さんは話します。

軽便鉄道を産業遺産として残したい、活用していきたいと考えている同会の活動は、現在も協働とPDCAを繰り返しながら、その内容を広げています。

23年度は、会津信用金庫の地域貢献活動助成金を利用して冊子を作製。軽便鉄道の絵画展に出品してくれた吾妻小学校の児童に配布しました。

「地元の企業や小学校との協働です。こうした活動を通して、軽便鉄道や沼尻鉱山のことをもっと知ってもらい、その価値を高めていきたいんです」と瞳を輝かせる安部さん。

同会の活動は、歴史の中に埋もれかけた軽便鉄道や沼尻鉱山に再び光を当て、見事に輝かせました。そして同時に、会員の皆さん自身を輝かせています。



町と町民が協働で取り組む、まちなか活性化交流拠点整備事業「結の里づくりプロジェクト」の活動の様子

# Collaboration to Answer 協働から答えに

目指す将来像のために必要なことは？

どんなに素晴らしい理念を掲げても、いくら立派な計画を作っても、目的を実現しなければ「絵に描いた餅」です。振興計画の最大の目的は、町民の幸せ。それが実現しなければ、計画そのもののすら意味を失ってしまいます。

具体的に計画を進めるための実施計画は、毎年度見直しをかけ、向こう3カ年分の計画を更新していくローリング方式をとっています。これは途中で計画の見直しが必要になった時に、迅速な対応をするためです。見直しには、町民の皆さんの意見を反映させていくことはもちろん、PDCAサイクルなどの視点から、計画自体の質を高めていくことも必要です。

計画実現のためのもう一つの鍵「行財政の効率化」

振興計画を円滑に進めるためには、行政事務の合理化、簡素化などを図りながら、行財政運営全般にわたる見直しや効率的な運営に努めることが必要です。効率的でスリムなまちづくりを推進、適正な人事管理と職員の資質向上、自主財源の確保や経

町の将来を一緒に考えることが必要な時期にきています。

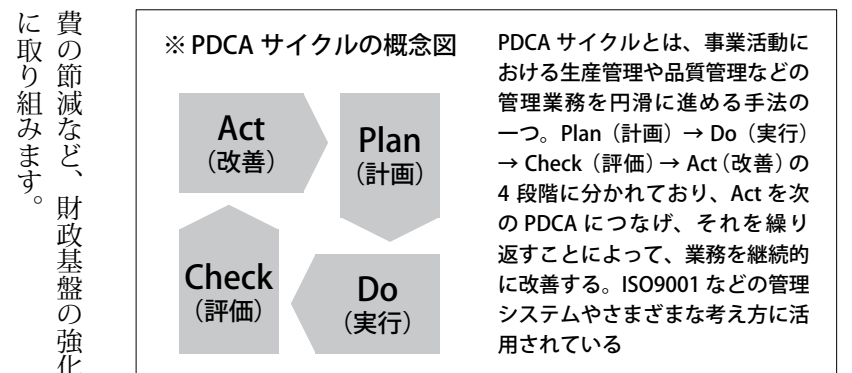
「自分たちの住む町をこんな町にしたい」という思いを、自分たちの手で実現するため、住民と行政が、お互いの特性や立場を尊重しながら、住民がやるべきこと、行政がやるべきこと、一緒にやるべきことなど、役割を分担しながら、協力してまちづくりを進めていくこと。それが「協働のまちづくり」です。

町では、皆さんに町政への関心を深めてもらう場、意見を聞く場として、町政出前講座やワークショップなどを開催しています。皆さんの意見、要望や提案を施策に反映させる機会です。皆さんの積極的な参加をお待ちしています。

全ての猪苗代町民の幸せのために

東日本大震災や福島第一原発の事故は、放射性物質による環境汚染や風評被害などを引き起こしました。この被害は、これまでの町民生活や経済活動の根幹を揺るがすものでした。

磐梯山や猪苗代湖に代表される豊かな自然、会津藩祖・保科正之公や野口英世博士などの偉大な先人、こうした祖先たちが私たちに残してくれた現在の猪



費の節減など、財政基盤の強化に取り組みます。

皆さんと町が手を取り合い「協働のまちづくり」を

地方分権が進んだことで、地方自治体は、ますます自由なまちづくりが可能になりました。一方で、住民のニーズは多様化しており、今までの行政主導型のまちづくりでは、住民満足度の高いまちづくりを実現することは困難な状況です。行政任せのまちづくりから脱却し、住民の知識や経験を生かしながら、

苗代を未来に引き継ぐことは、私たちの使命です。震災からの復興を盛り込んだ、未来を輝かせるための振興計画への取り組みは、町の最重要課題であると言えます。

振興計画の目的は、計画を実施することではありません。町民の皆さん一人一人が、幸せな生活を送り、人生を輝かせるためなのです。そのためにあるのが、協働のまちづくりです。

計画を立て(Plan：計画)、行動し(Do：実行)、協働で取り組む(Collaboration：協働)、そして答えや目的にたどりつく(Answer：答え・目的)もう一つのPDCA。

自分のため、家族のため、誰かのために協働する町民一人一人の人生が輝けば、町全体では1万6000人分。町の未来を輝かせるのは、皆さんそのものです。

特集「輝く未来に向け 思いを一つに」終わり

※「第六次猪苗代町振興計画」については、広報と一緒に配布しました概要版をご覧ください。計画書を希望する人は、企画財務課に問い合わせください。

▼企画財務課 企画調整業務  
☎(62) 2112